

◆ 転ばぬ先の・・・ ◆

今年度初めて全校生徒が一同に揃った。この14日に本館前庭で実施した防災避難訓練。

直近でも、10月7日に発生した千葉県北西部を震源とするM5.9の地震では、東京都・埼玉県で10年ぶりに東日本大震災以来の震度5強の揺れとなった。関東地方では40名を超える人的被害が発生し、一部のインフラも損壊、日常生活が乱れた。

今回実施した訓練は、火災を想定したものであったが、災害は時と場所を選ばない。心構えを含めた日頃の備えが大事となる。

講評では、かつて自分が受けた避難訓練での反省を踏まえ、訓練こそ真剣さが必要、命に関わることを認識した訓練であったかと力を込めると同時に、皆さんが住んでいる市町村の「ハザードマップ」を是非見て欲しい、と説いた。

地元取手市の洪水避難地図（利根川・小貝川洪水ハザードマップ）には本当に多くの情報が載っている。本校は、利根川と小貝川が形成した沖積低地に立地しており、この避難地図によると標高は4.2m。近隣の洪積台地上にある学校は「第1次水害時避難場所」（付近の標高は22.2m）であるのに対し、本校は「水害時緊急避難場所」



(取手市HP「取手市洪水ハザードマップ」より)

となっており、避難のプライオリティが2段階低くなっている。避難場所の指定に、標高が大きく関わっていることがわかる。

また、「家屋倒壊等はん濫想定区域」という、「木造家屋の倒壊をもたらす激しい流れが発生する危険が高い区域」も表示され、いざという時に大きな指針を与えてくれる。

今日の訓練は、見ていて大変気持ちのよいものであった。避難開始から7分で全クラスの情報が集約できた。消火器操作も含め、子どもたちは真剣にこの訓練に参加し、地元の消防署長からお褒めの言葉をいただいた。訓練の成果を実際に試すことになるような大きな災害が発生しないことを祈るしかないが、こんなところにも「**藤高クオリティ**」はあると感じることができた一時であった。